

校長室より

暗唱だより
令和5年10月
第三吾嬬小学校長
川中子 登志雄



夏休みが終わっても厳しい残暑が続いていましたが、お彼岸過ぎからようやく、秋らしい陽気になってきました。今年度も始まって、半年が経過します。10月は、学校も前期から後期へと移る折り返し地点です。

さて、10月の暗唱課題は、1000年以上も前に書かれた、日本が世界に誇る長編物語「源氏物語」から、物語の始まりの「桐壺」を選びました。

げんじものがたり

きりつぼ

源氏物語 「桐壺」

平安時代中期に紫式部という女の人が書いた「源氏物語」とは、どんな小説でしょう。簡単な紹介を調べてみました。

「源氏物語（げんじものがたり）」

平安時代中期の11世紀初め、紫式部によって創作された長編の虚構物語。正しい呼称は「源氏の物語」で、「光源氏（ひかるげんじ）の物語」「紫の物語」「紫のゆかり」などの呼び方もある。後世は「源氏」「源語」「紫文」「紫史」などの略称も用いられた。

主人公光源氏の一生とその一族たちのさまざまの人生を70年余にわたって構成し、王朝文化の最盛期の宮廷貴族の生活の内実を優艶（ゆうえん）に、かつ克明に描き尽くしている。これ以前の物語作品とはまったく異質の卓越した文学的達成は、まさに文学史上の奇跡ともいふべき観がある。以後の物語文学史に限らず、日本文化史の展開に規範的意義をもち続けた古典として仰がれるが、日本人にとっての遺産であるのみならず、世界的にも最高の文学としての評価をかちえている。

「日本大百科全書(ニッポニカ)」より

(<https://kotobank.jp/word/%E6%BA%90%E6%B0%8F%E7%89%A9%E8%AA%9E-60637>)

主人公の「光源氏」の誕生が描かれる「桐壺」の帖（今で言う「巻」）は、全54帖の最初の物語です。帝に仕える数多い女性のうち、桐壺更衣は位が高くないにもかかわらず帝から特別に愛されて、男の子（後の光源氏）を授かります。しかし、宮廷にいる他の女性たちからねたまれ、ひどい嫌がらせを受けるようになります。子どもが3歳になる頃、あまりのつらい思いが重なり、病気になるし亡くなってしまいます。

「源氏物語」は、世界中の20カ国語以上に翻訳されている「古典の中の古典」とも呼ばれる優れた物語だそうです。現代語訳もありますから、いつか読んでみてください。